

平成 27 年度第 2 回門真市めざせ世界へはばたけ事業推進委員会会議録

会議名称	平成 27 年度第 2 回門真市めざせ世界へはばたけ事業推進委員会
開催日時	平成 28 年 1 月 27 日（水）午後 3 時 00 分～ 4 時 00 分
開催場所	門真市役所本館 4 階 第 8 会議室
出席者	（委員長）柴田委員長 （副委員長）松宮副委員長 （委員）西村委員、藤井委員、三村委員、牧菌委員 【出席人数 6 人／全 7 人中】 （事務局）岡生涯学習部次長、清水生涯学習課長補佐、酒井学校教育課副参事、松本生涯学習課係員、小升生涯学習課係員
議題 (内容)	第 4 回門真市中学生海外派遣研修報告及び事業の振り返りについて 第 5 回門真市中学生英語プレゼンテーションコンテストについて
傍聴者数	－（門真市情報公開条例第 6 条第 5 号に定める不開示情報に該当するため、非公開）
担当部署	（担当課名）生涯学習部 生涯学習課 （電 話）06-6902-7139（直通）

<事務局>

それでは、ただいまから平成 27 年度第 2 回門真市めざせ世界へはばたけ事業推進委員会を開催いたします。

まず本日、並松委員の欠席をお伺いしておりますが、委員 7 名中 6 名が出席していただいておりますので、本委員会が成立していることをご報告いたします。

次に、お配りの資料の確認をさせていただきます。最初に、第 2 回推進委員会議事次第です。

1 ページ、資料 1、門真市めざせ世界へはばたけ事業推進委員会委員名簿です。

2 ページ、資料 2、門真市附属機関に関する条例の施行に関する門真市教育委員会規則です。

5 ページ、資料 3、門真市中学生英語プレゼンテーションコンテスト応募者数です。

6 ページ、資料 4、これまでご提出いただいた門真市めざせ世界へはばたけ事業評価表です。

13 ページ、資料 5、プレゼンテーションコンテスト改善点です。次に、14 ページ、資料 6、アンケート（案）です。

15 ページ、資料 7、第 5 回プレゼンテーションコンテスト進行表（案）です。最後に、緑色の表紙の第 4 回門真市中学生海外派遣研修報告書です。

お手元がないものがございましたら、ご連絡いただきますようお願いいたします。

よろしいでしょうか？

ないようでしたら、これからの進行を柴田委員長にお願いします。

よろしく願いいたします。

2. 第4回門真市中学生海外派遣研修報告及び事業の振り返りについて

<柴田委員長>

それでは、案件1ということで、第4回門真市中学生海外派遣研修報告及び事業の振り返りについて、事務局から説明をお願いします。

<事務局>

それでは、ご説明申し上げます。まずは、緑色の冊子、第4回門真市中学生海外派遣研修報告書8ページ目からご覧ください。

第4回門真市中学生海外派遣研修は、平成27年8月1日（土）から10日（月）までの10日間、第4回門真市中学生英語プレゼンテーションコンテストにおいて、最優秀賞と優秀賞に選ばれた9名と引率職員2名、そして添乗員1名が同行して、これまで同様オーストラリア、アデレード市に行きました。研修先は、チャールズ・キャンベル・カレッジ校です。現地、学校生活体験プログラムを中心に、課外活動、市内見学など、短い期間にたくさんの経験を盛り込んだものになっておりました。

海外派遣研修後は、帰国後交流会ならびに同窓会を8月29日（土）に開催しました。同窓会では、海外派遣研修生の研修参加以降の意識動向・現状を確認することやOB・OGの海外派遣研修後の取組、考え方を後輩研修生が聴き、話し合うことで相互に将来の指針にすることを狙いに、前半は「私の中の英語」をテーマに、後半は「英語」「門真」「夢」をテーマに、意見を出しあってもらい、グループごとで発表してもらいました。また、今後、海外派遣研修生に国際交流を含めた活躍の場を紹介・提供する取り組みとして、「はばたけ人材バンク」に登録していただきました。

次に、事業の振り返りにあたり、三つの資料の説明を用意させていただきました。まず、1つ目、議事次第と書かれた資料の5ページ目、資料3をご覧ください。第1回から第5回のプレゼンテーションコンテストの応募者数を表しております。応募者数は、第1回が191人、第2回が367人、第3回が386人、第4回が377人、そして第5回となる今回が747人と推移してきております。

次に、2つ目、6ページ、資料4をご覧ください。今までにいただきました事業評価シートです。最後に3つ目、13ページ、資料5をご覧ください。これは、プレゼンテーションコンテストの改善点についてです。

総括しますと、応募者数は、今回昨年を大幅に上回りました。未だ、応募者数が少ない中学校があることから、これからも中学校に根気よく働きかけていき、本事業への理解者を増やし、応募者数増加へつなげていくようにすることが課題となっております。また、近隣の私立中学校にも応募協力を依頼したにもかかわらず応募者数が3名と少なかったことも課題の一つです。こちらにも根気よく依頼を働きかけていくことが必要かと考えております。

以上、第4回中学生海外派遣研修報告及び事業の振り返りについて終わります。

<柴田委員長>

ありがとうございました。第4回目の振り返り・説明がありましたが、何かご意見をお願いいたします。

<松宮副委員長>

今提供いただいた資料の資料3について、総数では非常に伸びてきているとあるのですが、参加中学校別でみていくと多い学校と少ない学校があるように思います。五中・七中はコンスタントに一定時期から伸びてきているのですが、二中は4回目が1人だったものが5回目は274人、門真はすはな中は141人だったものが15人と、年度ごとに数が大きく変動してしまっており、読めない学校があります。

教育においては、突発的なものでは効果があまり期待されませんので、安定したものにできるように、できましたらこれを教育委員会で分析をしていただきたいです。どのような要因なのか、たとえば管理職の意向なのか、それとも英語の先生の働きかけなのか等、いろいろなものがあると思います。しかし、仮に管理職が変わったとしても安定した学びの機会の提供ができるように、ぜひ分析をしていただいて、今後の募集のあり方を検討していただければと思っております。以上です。

<柴田委員長>

他に何かございますでしょうか。

<西村委員>

海外派遣研修に行き、たいへん自信を持って帰ってきて、夢を持ち、いろいろな所に行く等、海外派遣の報告書を見させていただいて、毎回すごく充実していると思います。しかし今後この中に、討論する際などに、たとえば、研修前後で気持ちあるいは動機づけが変わったか等のビフォーアフターを取り入れるのはいかがでしょうか。

また、海外派遣研修に行った方の頑張っている姿を皆に向かって広めていくことは、一番大事なことだと思いますが、奇しくもここへ至らなかった方に注目するのも良いのではないのでしょうか。今回一次通過が65名ということで、二次へチャレンジする数も増えていますよね。奇しくも至らなかった子が、チャレンジしたことでどのように変わったか、たとえば、英語がちょっと嫌いだったけれども、すごく好きになったとか、ちょっとしたことでも良いと思うのですが、そういったビフォーアフターを積みあげて集めて、話題にしてみても良いのではないかと思っております。

<柴田委員長>

それに関して事務局何かありますか。

<事務局>

いただいたご意見を参考に、検討させていただきます。

<柴田委員長>

前後いたしますけれども、一点目、松宮委員からご指摘のあった点について、何かア

アイデア等ございましたら、事務局お願いします。

<事務局>

ご意見いただきましたとおり、たしかに多い学校と少ない学校があるように思います。この点につきましてはまた分析して、より良い方向につなげていきたいのですが、一つご報告できることとしましては、特に二中と四中で今回増えている点については、学校として、今後取り組んでいこうという動きがあったというように聞いています。特に、夏休みの宿題として皆で取り組んでいくといった取り組みもあったというように聞いておりますので、やはりご意見いただきましたように、その学年の先生によるというところよりも、学校として取り組んでいくという方向に、今後持って行けるように、進めていきたいと思っております。

<松宮副委員長>

恒常的に各中学校から、本事業を教育の機会として捉えていくための一つの方策として、この、非常に立派な海外研修の報告書を作られておりますが、報告書を作って「はい、おしまい」といったような気持ちになってしまうよりも、日常的に彼らが交流を進め、参加した者だけではなく、参加しなかった者が参加したいと思わせるような仕掛けをつくっていく必要があるのかなと思っております。

今日少し時間を頂いて、インターネットを活用した形で何が可能かということで、これは一部のみオープンにしているものですが、試行的に作成しているものを少し紹介させていただきますので、事務局の方で今後これは可能かどうか、また考えていただければと思います。

まず、最初にご覧いただきたいのが、キャンベルカレッジのホームページです。この学校は修学前から高校3年生までのカリキュラムを持っている学校で、たとえば日本という工業高校の自動車科であったり 家庭科であったりと非常に多様なカリキュラムがあります。そういった中で特に私が感心したのが、パフォーミングアーツという部分です。賞なども受賞しており、オズの魔法使いなど、独自にDVD化できるくらいの才能、結果を出したりしています。日本の中学校や高校、特に中学生にしてみると、「こんなことが学校でできるのか」という憧れ、建物にしてみると2階建て程度のものなのですが、そういった中でコンテンツが非常に充実しているものがあります。今年度に訪問した様子がキャンベルカレッジの中のニューズレターにも紹介されています。学校のさまざまな取り組み、優秀な生徒、学生を表彰したりといったような記事も載っています。また課外活動や時間割等、学校の活動などもリアルな紹介されています。こういったものも教材として使えますね。ここに、門真の派遣団との交流の様子も紹介されています。見出しプログラムということで、幅広くやっておられて、紹介されています。中国からも来ています。ところがお話を伺うと、門真からの来訪は非常に特殊だということですね。なぜ特殊かということ、彼らはきちんとしたものを持ってきてくれるということです。持ってくるというのは、いわゆるプレゼンテーションです。学校で授業を一緒に座って受

け、会話をしたり、ホストとバーベキューをしたりして楽しみ、それで「どうもありがとうございました」と終わるのではなく、門真から行く学生は必ずすごいお土産を持ってきてくれるということで、副校長は、非常に楽しみにしているということをおられました。キャンベルカレッジはこのような受入体制や、学校のユニークさがあるわけですが、こういったものを、門真の中学校の英語の授業の中で一部そういう時間を設け、海外の、オーストラリアの学校の様子などを紹介するということも可能というわけです。

しかし、このようなものだけではなくて、私達はもっと、より発信型ということを考えていかなければならないだろうということで、デザインしたものが 있습니다。それをご紹介したいと思います。「J-BOX」というもので、インターネット上で、いわゆるブログやツイッターとはまた違うのですが、ブログの感覚で情報の共有を行うことができます。具体的には、海外で日本語や日本文化を学習する先生や子ども達のために作ったもので、チャットボックスを使い、いろいろな情報を交流したり、気軽に学習者や先生が質疑応答したり、また日本語を学ぶためのいろいろなサンプル・教材などを提供しているサイトです。その中で、チャットボックスのルームの一号室が、門真とキャンベルの学校用に予約されています。少し見てみますと、先の土曜日の研修の際に、前回参加した子ども達と引率の先生の写真をその場で撮って、その場でこのチャットの方に掲示をしたというところなんです。そして、その下には日本語でも英語でもメッセージを書いていくことができるという、非常に簡単なブログなんです。これに対して、門真の皆さんに対する挨拶ということで、実は先ほどの写真と同じ写真がキャンベルの方からアップされています。このような写真や、それに対する書き込みなどを通して、学生相互が交流できるような、学校生活の情報をお互いに共有しあえます。これを活用すれば、プログラムに参加した子ども達だけでなく、中学校の英語の授業でいつでも、インターネットへアクセスさえできればいつでも開いて、「今のオーストラリアの気候は?」「授業は何をしているんですか?」といったようなリアルなものを、学んだばかりの英語や写真を通して、交流を深めることができる、そういったものを今作っているところです。今回試行的に実際に使ってみると、子ども達が持っているスマートフォンで簡単にやり取りができました。

そこで一つ紹介したいのですが、これは同じくオーストラリアのアデレード市内の学校の8年生つまり中学校2年生の子ども達が日本語を学ぶということで、関西外大の学生が自らが立ち上げたブログのサイトなんです。そしてこれはちょうどハロウィンの頃にスタートしましたので、日本語と英語を混ぜながら、ハロウィンのメッセージを掲載しています。そのサイトには、オーストラリアの子から、「節分に非常に興味があります。日本の子ども達は本当に家の周りで悪霊を退治するために豆を投げるのですか」という素朴な質問が英語を交えて来ました。それに対して、日本の子ども達、学生が、コンビニで売っていた節分のこういったものを写真で説明したりといったような形で

らんどん交流が進んでいくわけでは。また、「和食に興味を持っている。何か紹介してくれ」ということでラーメンを紹介したり、世界遺産になっている広島に行った時の写真を掲載したり、大学の様子を紹介したりといったように、やりとりはさまざま出てくるわけでは。写真を使うということはものすごく効果的であるというのはお分かりになるかと思いますが、結局メールだけのやりとりでなく、これを全員で共有していく、といったような流れが生み出されてきます。門真の場合ですと6校の中学校から、いろいろな子ども達に興味をもち、情報交流し、覚えたことを、英語の授業の中身と組み合わせることで、先程言いましたように、かなり面白い取組みになり、コンテストへの恒常的な参加者を見込めるようになるかと思いますが、日本語を学んでいるオーストラリアの8年生つまり中学校2年生と関西外大の学生は、いろいろな質疑応答をしています、そのやりとりが全て教材となってきます。こういった取組みは、もちろん今後可能となってくるのかなと思います。そしてこれの良いところは、単に写真と文字だけでなく、声をスマートフォンに録音して、そのままアップロードすることもできますし、たとえば運動会など、ビデオ撮影したものをそのままアップすることもできます。もちろんその内容に関しては、子ども達がアップするわけですので、不適切なものも出てくる可能性もあります。そのあたりをどうしていくか、という辺りも検討が必要かと思いますが、今の段階でいうとキャンベルカレッジと門真市とのやり取りは、可能というところでは。そういった取組みを可能にしていくことが、先程言った、子ども達の募集の数の確保に繋がるとは思います。

たしかに、応募者数は総体でみると増えている、倍増していることがみえてくるんですけども、学校別にみても、どうも不安定さがまだまだ残ると、教育の継続性という意味において、少し、政策的な取組みを進めてみたらどうかというふうには考えているところでは。これはインターネット上の情報の共有・公開ということになりますので、教育委員会として教育的な価値とか、個人情報であったりとか、そういった運用の仕方については今後検討していかなければいけないのかもしれませんが、そういったネガティブな部分も考えたとしても、事業を推進していくという意味では、非常にプラスの効果も期待できるのではないかなというように考えています。それが一つ、具体的に、今後5回目を迎えて、次回6回目と、さらに発展させていく、裾野を広げていくための一つの教育施策となりうるかなというように思います。

<柴田委員長>

ありがとうございます。オーストラリアのように時差が無い外国は数少ないと思いますので、お示し頂いた方法は、その特性を生かせる方法だと思います。是非検討していきたいと思いますし、またご協力を頂きたいと思います。

他に何かご意見等ございませんでしょうか。

<推進委員>

特になし

<柴田委員長>

また後で何かお気づきの点等ありましたらお願いします。それでは次の案件に移らせていただきます。

2. 第5回門真市中学生英語プレゼンテーションコンテストについて

<柴田委員長>

案件2、第5回プレゼンテーションコンテストについて、事務局より説明をお願いします。

<事務局>

第5回門真市中学生英語プレゼンテーションコンテストの進捗状況についてご説明いたします。

さきほどもご説明しましたが、昨年7月はじめから9月末まで受け付けましたコンテスト応募者数は、747名となり、一次審査通過者は、本委員会でのご意見を踏まえて、昨年の48名より17名増やした65名とし、また二次審査前には一次審査通過者を対象に事前研修を実施しました。二次審査には55名が参加し、18名の本選通過者を決定いたしました。今年、辞退者は無く、コンテストには18名が出場いたします。

事前研修は、関西外国語大学生、市内中学校の英語教員、海外派遣研修OB・OGのご協力のもと、発表者のレベルアップを目的として、今年も4回実施いたします。これまでに、1月23日(土)に実施いたしました。この後、1月30日(土)、2月6日(土)、2月20日(土)に、3回実施し、21日の本番に臨みます。コンテストは、2月21日(日)1時より門真市民文化会館ルミエールホール小ホールにて実施いたします。審査委員長には、松宮副委員長にお願いし、西村委員には質問者をお願いいたします。もう1名の質問者には、昨年同様、Mary Hillis (メアリー・ヒリス) 准教授にお願いしております。また、今年のコンテストもスカイプ交流を行う予定です。海外派遣研修の派遣先である、チャールズ・キャンベル・カレッジ校とインターネット回線を通じて見ていただきます。

具体的には、開会式終了後コンテストが始まる前に、舞台奥のスクリーンにチャールズ・キャンベル・カレッジ校副校長を映し出し、松宮副委員長と現地オーストラリアと会話をしていただきます。このほか、発表者の問いかけに会場が応えられる雰囲気を作るために、大学生にご協力いただき、コンテスト開始前に前説として、挨拶・応答の練習を取り入れます。また、審査集計時間の間には、第4回海外派遣研修生4名に海外派遣研修の報告と門真市子ども英会話講座「KEIK」の子どもたちの英語の歌に加えて、海外派遣研修生OGにも発表をお願いしております。審査方法は、昨年と同様にしておりますが、質問は、2人の質問者が交互に1問ずつお願いいたします。また、表彰の発表順については、奨励賞の生徒への配慮から優秀賞・奨励賞の発表順を学校順とします。当日会場来場者に配るパンフレットは、会場に来られた方に少しでも発表内容が理解できるように、キーワード(英語、カタカナ、日本語訳)と評価基準を載せます。この評

価基準の説明については、司会から説明を付け加えます。また、コンテストの経緯を表にし、舞台に立つすべての発表者がよりすぐられた 18 人であることを表現するようにしております。また、今回のコンテストより、より良いコンテストにすることを目的に来場者に対してアンケートを実施いたします。14 ページの資料 6 をご覧ください。8 つの質問項目を入れ、最後は、感想、意見を書いていただく項目としております。以上で説明を終わらせていただきます。

<柴田委員長>

ただいま、第 5 回プレゼンテーションコンテストのすすめ方、並びに、アンケートについて説明がございましたが、何かご意見、ご質問などありませんでしょうか。

それでは私から一つ。OB・OGに協力していただくということですが、これは初めに説明があった「人材バンク」というのと何か関係があるのでしょうか。

<事務局>

「はばたけ人材バンク」について説明いたします。これは、昨年夏に海外派遣研修が終わってから、同窓会をする時に、事務局で話し合い、「集まってもらうのも良いが、自分たちが勉強してきたこと、それから今学んでいくことの何かを発表するステージを準備するのも自分たちの仕事ではないか」ということを考えました。まず「人材バンク」に登録していただいて、その発表するステージの一回目ということで、この第 5 回のプレゼンテーションコンテストに時間をとり、「将来について」ということを自分で指針となるような、自分にも問いかけるし、会場の皆さんにも共鳴してもらえるような発表の場を設けたいと思ひまして、今回取組として入れさせてもらいました。

<柴田委員長>

ありがとうございました。今年もスカイプ交流を松宮副委員長の協力のもと行うということなのですが、スカイプ交流ならびにコンテストについて何かご意見、ご説明ありましたら、お願いします。

<松宮副委員長>

はい。本日の推進委員会でスカイプ交流についてご許可出ましたら、早速今日の夕方、キャンベルの副校長の方にメールを送りまして、こちらの細かなスケジュールと趣旨を説明させていただき、あちらのご協力を仰ぎたいと思います。現段階では昨年度と同様の形で、残念ながら日曜日ということですので、現地の生徒の方へは動員はかけられないけれども、少なくともご本人はご挨拶して参画したいという意向を示されておられます。会場に来られている方、その縁者の方、プレゼンターの中学生の方はそのショーがあるかないかで臨場感も変わってまいりますので、インターネット、ワイファイの繋がり具合もありますが、確認したうえで、今日の推進委員会で了解が取れましたら、早速アクションを取りたいと思います。そしてコンテストの方に関しましても、先程説明がありました、質問者ということで非常に緊張しますけれども、これからあと 3 回の中で、いかに質問に対応していくかということも含めて、また、新たに会場のオーディエンス、

聴衆、見に来ていただいた方をどう巻き混むかということも含めて、外大の学生が貢献できることを一生懸命やっていきたいと考えていきたいと思っています。

<柴田委員長>

ただいまご提案ありましたが、スカイプの活用についていかがでしょうか。藤井委員何かありますでしょうか。

<藤井委員>

はい。去年も電波状況はよくなかったけれども、お顔が出てきた瞬間、会場が盛り上がりましたので、今年も検討していただきたいと思います。

<松宮副委員長>

何か不具合がありました場合の対応も何か考えておきます。

<柴田委員長>

それでは、スカイプの活用についてはご異存ないということによろしいでしょうか。

<推進委員>

はい。

<柴田委員長>

また、先程会場の盛り上がる方法ということで話が出ましたが、来場者の増員に向けて何か取り組んだことがあればご報告をお願いします。

<事務局>

はい。増員に向けては、チラシ・ポスターを、中学校のみならず、小学校にも送らせていただきまして、中学生、小学生にも入っていただけるような形が取れればと考えております。特に、「KEIK」の子ども達が昨年よく見てくれたというのがあり、とても嬉しく思っておりまして、会場も去年は立ち見が出るほどだったので、今年もそれに近づけるよう、頑張りたいと思っております。

<柴田委員長>

そういう意味では、今回アンケートのご協力のお願いということで案が出ておりますけれども、少しご覧になっていただきまして、今後に生かせるようなアンケートになるよう、改善点、お気づきの点があればお願いします。

<松宮副委員長>

もし可能であれば、「一番印象に残ったプレゼンテーションは何か」をきいてみるのも、一般の参加者目線に立てるので、聞いてみたいです。審査をする立場として、中学生が一生懸命英語で話している内容が伝わったかどうか、知りたいです。

<柴田委員長>

そのような項目がありましたら、そういう視点で見ただけですので、見方も若干変わるかなと思いますね。他に何か、アンケート以外でもありましたらお願いします。

<藤井委員>

はい。アンケートですが、回答は4項目から選択するというのですが、たとえば、

(6)「コンテストをまた見に来たいと思いますか。」ですと、項目は、肯定的が、「ぜひ見に来たい」「時間があれば見に来たい」、否定的が、「見に来たくない」、そして真ん中として「どちらともいえない」となりますが、肯定的と否定的を二つに分けて、どちらかの結果がでるようにした方が良いのかなと思います。したがって、「あまり見に来たくない」を増やすとか、「どちらともいえない」を無くして、「あまり見に来たくない」にするとかした方が集計しやすいかと思います。

<柴田委員長>

他には何かございますか。

<西村委員>

応募者についても、また来場者についても、大幅に増えているとのことで、各学校さんを見ても、学校全体が盛り上がっているように思うのですが、その盛り上がり状況というの、できたら教えていただきたいです。

<事務局>

はい。まず応募者の数字でいうと、二中のところですね。特に盛り上がりというのは、先生のご協力、宿題ということもあったので、積極的に、応募についての相談、お電話があったという点で一つうかがえるのかなと思います。問合せもそうなのですが、「明日には必ず送ります」といったお言葉を頂けたのも、ありがたいところであったのかなと思います。具体的に学校の状況などは自分たちもその場に行っているわけではないのでお伝えすることはできないのですが、一部垣間見えることができるのはそういったところなのかなと思います。

<西村委員>

常々、中学生、小学生ももちろん来ていただけたら今後の憧れにもなるかと思っていますのですが、これだけ中学生で、応募があつて、友達が前で発表しているという素晴らしい姿を見て、自分たちが、またやりたいな、と思えるような状況があるので、できるだけたくさん中学生が来てくれたら良いなと思います。この辺ですごく人数が増えているので、応募した方が、皆が見に来られることを期待しています。

<柴田委員長>

英語の教員の方にも多数ご協力いただいておりますが、人数や内容など、変わってきた点はありますか。

<事務局>

これまで、学校の先生にもご協力いただいて、定例会、海外派遣研修、事前研修などさせてもらっているなかで、人は変わっておりますが、まず、一番うかがえるのが、意見を頂けるようになってきたということですね。今までは受け手で、「何をしたら良いですか」といったような状況だったのが、「こうやっても良いのでは」「どこまでお手伝いさせてもらいましょうか」「今夏の目標は」等の積極的なご協力がありました。また、コンテストの事前研修の前に、自分たち事務局の方から、学校側に、きちんと名前

を当てて、レジュメや流れの説明書類を送付、ご連絡しましたところ、1回目の時も、30分前に集まっていたいただいて、今日の流れということで、今回特に松宮先生にもお話ししていただくことができました。本当に、これまで以上に事前研修が充実しているなど感じることはできましたのは、先生にご協力いただいている証かなと思っております。

<柴田委員長>

「参加・協力」から「参画・連携」に進歩したということですね。ありがとうございます。他に何かご意見ございますでしょうか。

<推進委員>

特になし。

<柴田委員長>

それでは、事務局から連絡をお願いします。

<事務局説明>

それでは、3点ご連絡させていただきます。

まず、1点目がめざせ世界へはばたけ事業の平成27年度事業評価についてです。コンテスト終了後、松宮副委員長、西村委員、並松委員には事業評価シートをお送りいたしますので、平成27年度の事業評価をお願いします。

つぎに2点目が、海外派遣研修の決定についてです。3月24日の第1回門真市議会議定例会の議決をもって確定となります。確定後は、海外派遣研修候補生に連絡し、参加意思の確認をいたします。その後、平成28年度4月下旬に保護者説明会を実施し、海外派遣研修のための事前研修を実施していく予定です。

最後に平成28年度の第1回門真市めざせ世界へはばたけ事業推進委員会は、5月から6月ごろに実施したいと考えております。来年度の推進委員会の実施日は、改めて、委員の皆さまと調整させていただきますので、ご協力のほど宜しくお願い致します。

詳しい内容につきましては、改めてご連絡させていただきます。以上です。

<柴田委員長>

ありがとうございました。今後の流れについて事務局から説明がありましたけれども、何か事務局に確認しておくことはありませんか。

<推進委員>

特になし。

<柴田委員長>

以上をもちまして、平成27年度第2回門真市めざせ世界へはばたけ事業推進委員会を終わらせて頂きます。本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございました。